

【(2) 教室環境】

①「目や耳から入る刺激を減らしている」

《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、H 刺激の選択の困難さ、M 自己コントロールの困難さ、
N 注意の持続の困難さ、T 感覚過敏

《解説》

教室前面にいろいろな掲示物が貼ってあったり、物が置いてあったりすると、それが刺激となり、授業に集中しにくくなります。掲示物を厳選したり掲示位置を工夫したりするなど、刺激を減らすことで、落ち着いて学習に取り組みやすくなります。

学級の中には、外からの刺激に反応しやすく、注意の持続が難しい子どもがいる場合があります。板書以外のものに注意が向いてしまったり、気になる掲示物があると、そこから目を離すことができなくなったりする場合があります。そのため、刺激の少ない環境にすることは、集中すべきことに意識を向けやすくするための大切な支援になります。また、音や光などに過敏性を持つ子どもがいる場合があります。どんな音が学習や生活に影響を与えているかを把握し、取り除けるものは取り除いたり、音を小さくしたり、座席を配慮したりするなど静かな環境で学習に取り組めるようにすることも大切です。

黒板の上の壁面や側面には、必要なものだけを掲示し、他のものは背面に掲示するようにしたり、戸棚はカーテンなどで隠したりすることで刺激を減らすことができます。

【工夫点】

- ・ 前面黒板には必要なもの以外は貼らないようにする。(小中高 工夫例 10)
- ・ 教室をできるだけ整理整頓する。(小中高)
- ・ 戸棚はカーテンや白い紙などで隠す。(小中 工夫例 11)
- ・ 日光で黒板が反射して見えにくいときは、カーテンなどで光を遮るようにする。(小中高)

◆工夫例 10「前面黒板には必要なもの以外は貼らないようにする」



《中学校》

教室の前面黒板には授業に必要な物以外は貼らないようにします。
刺激となるものがないので、子どもは板書に集中しやすくなります。

◆工夫例 11「戸棚はカーテンや白い紙などで隠す」

《小学校》

戸棚やロッカーには、カーテンや白い紙を貼って中が見えないようにして、刺激を減らします。

